

本報告書の手引き

一 本報告書の目的

本報告書は、次の二つの目的から作成しています。

(一) トヨタ自動車株式会社における「環境緑化プログラム」の報告

トヨタ自動車株式会社では、社会貢献活動である「環境緑化プログラム」の一環として設置している研究会「杜の会」において、一九九七年度より、地球温暖化防止の視点から「森林資源の活用・循環のあり方」を検討してまいりました。その成果である提言書は、一九九九年一月二五日から開催した「杜の会インターネット会議」等で公表させていただきました。インターネット上で関係の方々との意見交換をさせていただきました。こうした一連の活動を取りまとめたいとして、本報告書を作成いたしました。

本報告書をもちましてこれまでの活動にご協力いただいた方々への報告とお礼に代えさせていただきます。そして、これまでご協力をいただいた方々はもちろんこと、より多くの方々に、弊社の取組みを知っていただき、今後のご指導をお願いしたいと存じます。

(二) 「木材のライフサイクル」に係る関係者の情報共有

一九九七年二月の地球温暖化防止京都会議（気候変動枠組条約第三回締約国会議）では、CO₂の吸収源として森林が位置づけられ、注目を集めました。しかし、地球温暖化防止の観点から森林を考える際、森林だけを議論するのではなく、「木材のライフサイクル（森林から木材の生産・消費・廃棄に至る全プロセス）」のCO₂収支を議論し、「木材のライフサイクル」に係る関係者が改善の方向を共有していくことが大切です。

こうした考え方から、本報告書は、「木材のライフサイクル」を担う林業、木材加工、住宅・建築、製紙、廃棄物処理等の関係者を対象に作成いたしました。今日では、マコ（拡大生産者責任・生産者の製品廃棄への責任等）の考え方が普及しつつありますが、この考え方を「木材のライフサイクル」にも適用していく必要があります。本報告書が、「木材のライフサイクル」全体を視野にいたれた関係者の改善行動や関係者間の連携の一助となればと考えています。

なお、「木材のライフサイクル」全体をとらえると、森林（自然の森）と同様に、住宅地等も「街の森」ともいうべき重要なCO₂の貯留場所であるという認識に基づき、本報告書のタイトルを「自然の森と街の森から、地球温暖化防止を考える」とさせていただきます。

二 本報告書の構成と見方

本報告書の第一編以降は、次のように構成しています。

概要編 検討経緯と報告書の概要

トヨタ自動車株式会社における環境緑化プログラムの概要を示し、本報告書に係る活動の位置づけを示します。

次いで、本報告書のテーマに関して、「杜の会」で作成した提言書の概要と、提言書に基づき実施させていただいた意見交換の結果の概要を示します。

この概要編をご覧になれば、本報告書でお伝えしたい大凡を把握することができるとおもいます。

第一編 「杜の会」からの提言書

「杜の会」で作成した提言書の全文を示します。この中で、「木材のライフサイクル」に係る現状と課題、あるべき方向と考えられる改善方策を示しています。

提言書の中には、「木材のライフサイクル」の改善による地球温暖化防止効果について、試算を行った結果も盛り込んでいます。

第二編 「杜の会」からの提言書に基づく意見交換

「杜の会」の提言書に基づき意見交換をさせていただくために実施した「杜の会インターネット会議」、及びそれに関連して実施した「木材のライフサイクル」関係者へのアンケート調査の結果を報告させていただきました。

多くの意見について、その全てを掲載させていただくことはできませんが、意見の傾向を読みとっていただくと幸いです。

資料編 「杜の会」の提言書に係る資料

「杜の会」の提言書作成にあたっては、関連する基礎資料の収集・整理をいたしました。その一部ではありますが、地球温暖化防止に関する国際的な検討動向に係る資料、東京圏在住の一般の方々に対して実施させていただいた「地球温暖化防止と住宅に関するアンケート調査」結果を添付いたします。